

COOP

京都の生協

2004 MARCH NO. 51
発行 ● 京都府生活協同組合連合会

Talk Talk トークとーく

「ほっ」とすることを大切にしたいですね

—京町屋からのメッセージ— 2

● 遊墨漫画家

みなみ くみ こ
南 久美子 さん

● 京都府生活協同組合連合会副会長

(京都生協理事長) こばやし とも こ
小林 智子 さん

C O N T E N T S

- ◆ 京都府「食の安心・安全意見交換会」開催 7
- ◆ 2004年 新春交歓会開催 8
- ◆ <トーク&イート企画> 留学生が語る
～世界と日本の稲・コメ・ごはん～ 10
- ◆ 京都生協「第6回 コープ・産直・地場商品
大交流会」開催 12
- ◆ 乙訓医療生協の健康チェック活動 13



対談

「ほっ」とすることを大切にしたいですね
—京町屋からのメッセージ

遊墨漫画家 南久美子さん
こばやし ともこ

京都府生活協同組合連合会副会長

小林 智子さん

Talk Talk

トークとーく

墨で書かれた、擬人化した漢字に、軽妙なイラスト。見た瞬間、思わずクスッと笑ってしまふ作品がいっぱい。機音が聞こえてきそうな西

陣のアトリエに遊墨漫画家・南久美子さんを訪ねると、絵の雰囲気そのままの柔和な笑顔に出会えた。

”体力”と”気力”が必要な町家暮らし

小林 このユーモア工房”アトリエほっ”も、常設ギャラリー”Machiya de ほっ”も、築一〇〇年以上とは思えない、モダンな機能美があつて、すばらしいですね。あらためて京町家の生命力のようなものを感じます。

南 ありがとうございます。

でも、冬は寒いし、町家に住むには、けっこう体力と気力がい入るんですよ（笑）。私は、現在ギヤラリーにしているほうの家で生まれて、結婚するまで暮らしましたが、暗くて寒い町家が大嫌いでした（笑）。

小林 それは意外なお話ですね。ご実家は電気屋さんで、以前は現代的な外装のお家だったとか。

南 はい、町家が嫌いで、お日さんが直接入ってくる家が

あこがれでしたから、ハイカラな外装にした時はうれしかったですね。実家はもともと炭屋だったのですが、炭が使われなくなったので電気製品を扱うようになったので、昭和三〇年代に、中途半端にモダンな新建材の張りぼてで、町家の梁や柱を全部隠してしまいました。でも、子どもの私にしてみれば、明るい家になって、ひたすらうれしかったです。

小林 町家のよさに気づかれたのは、いつですか？

南 町家ブームが訪れる少し前です。父が他界したあと、誰も住まなくなつて、「ギヤラリー

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

「ほっ」とすることを大切にしたいですね

—京町屋からのメッセージ……………2

京都府「食の安心・安全意見交換会」開催……………7

2004年 新春交歓会開催……………8

留学生が語る……………9

～世界と日本の稲・コメ・ごはん～……………10

「第6回 コープ・産直・地場商品大交流会」開催

～京都生協の「生産者と組合員の顔が見える関係」

づくり～……………12

地域の中に健康づくりの輪を広げたい

～乙訓医療生協の健康チェック活動～……………13

TOPICS……………14

●大学生協京滋・奈良地域センター総会開催

●2003年度JA京都女性組織協議会と京都府生協役

職員・組合員との懇談会開催

●2003年度 ライフプランセミナーを開催

●京都府生協連と各会員生協との防災訓練実施

●近畿「食の安全・安心に関する意見交換会」に参加

●「近畿地域食品表示フォーラム」に参加

●「消費者団体訴訟制度を考える連絡会議」設立総会

開催……………15

●2003年度 監事・役員研修会開催～コンプライ

アンス経営をテーマに～

●マスコミ関係者と京都府生協連役員と懇談会開催

高病原性鳥インフルエンザ対策にかんする要望……………16

おもな行事のお知らせ……………16





ーにしてみたら？」という夫のアイデアで、張りぼてをはがしてみたら、梁や柱がちゃんと残

っていました。いろんな方から「いい家だねえ」といわれて、はじめて「そうか、そんなにいいのか」と（笑）。

阪神淡路大震災後の 作品展へのメッセージから

小林 隠していたものをとることで、変わらぬよさが見えてくるというのは、南さんの絵にも共通しているなと思います。とかく私たちは、心に鎧（よろい）を着て、他人に内面を見せないように防御の姿勢で暮らしがちですが、そういう時に南さんの絵に出会うとほっとする。たぶん、心が開放されて、素（もと）の自分に戻れるからでしょうし、それは合板を取り払ったこの家のよさを再発見することとも共通しているように思いました。

南 そう思ってくださいとうれしそうです。私はもともと「サザエさん」のような四コマ漫



遊墨漫画家
南久美子さん

画を描いていたのですが、ある時、鎧を脱いだら弱い自分が出てくることに気づいて、「じゃあ、弱い自分を許して、弱くてもがんばっている自分をほめてやろう」と思っただけです。私たちは「自分にきびしくするのが美德。自分を許したりほめたりするなんてとんでもない」という教育をうけてきましたけれど、その発想を逆転したらどうかと思っただけです。

小林 そうすると「ほっ」が出てきたんですね（笑）。「自分に優しく」って、私も大好きです。自分に優しくすることで、他人にも優しくなれますから。

南 自分を許せなくてカリカリしていたら、人にも冷たくなってしまうですね。

小林 それでギャラリーにも「ほっ」という名前を？

南 笑いの医学的効用が注目されはじめた頃がありました



京都府生活協同組合連合会副会長
（京都生協理事長）
小林智子さん

でしよう？ あの時、私も笑いで心を癒（い）せたらいいなと思いついて、阪神淡路大震災の一年後には、被災者のみなさんに見ていただこうと神戸元町の百貨店で作品展を開いたんです。すると、震災にあわれた方がたくさん来てくださって、約二〇〇〇通のメッセージを寄せてくださいました。まるで手紙のようにぎっしり書かれていて、とても感動したのですが、もっとも多かった言葉が「ほっとしました」「ほっこりしました」だったんです。

どちらも使いたかった言葉なのに、妙に残って、「いつかギャラリーやアトリエを持てるようになったら、絶対に『ほっ』を使おう！」と思いました。そんな経緯から出た「ほっ」なので、私の気持ちのなかでは阪神淡路大震災の時の思いにつながっていくんですよ。



いっしょに食べて、

「合笑」すれば仲よくなれる

小林 南さんの絵のなかで、

私はとくに、犬のお母さんが子犬におっぱいをあげている「気にしない気にしない」が好きです。子犬のなかに一匹だけ子猫が混ざっていて、うれしそうな顔でこつちをふりむいて笑っている。ああ、いいなあと思います。

南 (笑)。ありがとうございます

小林 私たち生協は「生活を

協同する組織」で、なかでも共同購入は、用事があつて配達の間には行けなくてもお互いに協力しながら支え合うシステムなのですが、最近は「買い物の中身をお隣に知られたくない」といった反応もあるんです。児童虐待が長いあいだ見すごされる背景には、「家庭の中を見せたくない」「他人には関わりたくない」という風潮も影響しているのではないかと思うと、「気にしない気にしない」の絵の、「自分の子も他人の子も、まあええやないか、いっしょに育てようや」というメッセージがぐつと迫ってきます。

南 私も子育てを経験しましたが、「他人なのに口出ししてもらって、ありがたい」と思えるような関係をつくらないと、ほんとうの子育てはできないかもしれないですね。

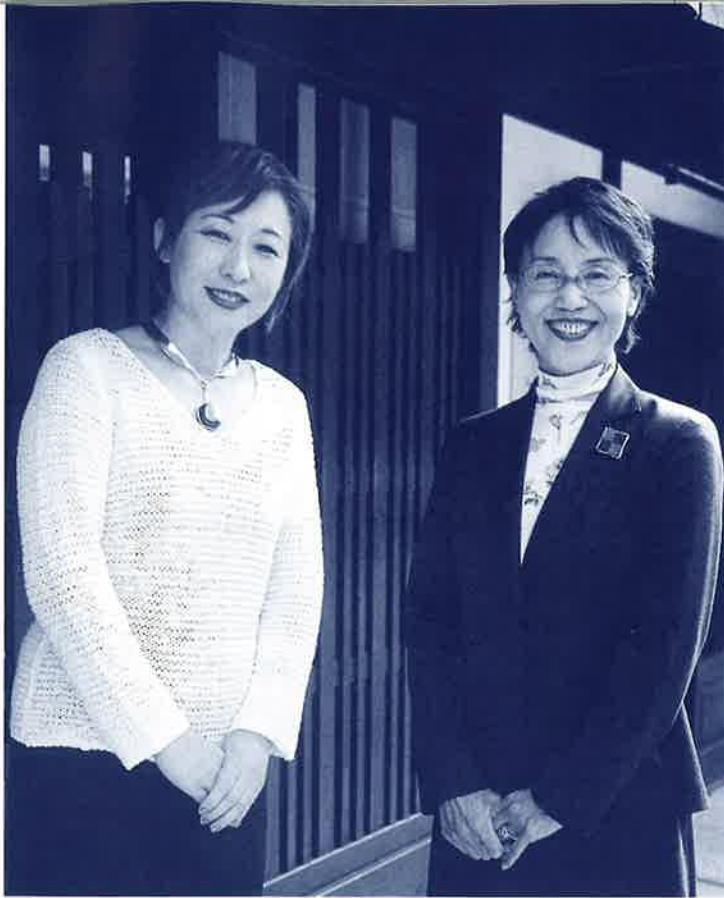
小林 そういうお互いのつながりを、私たち生協も日常の暮らしのなかでたくさんつくっていききたいと思っています。

たとえば食べ物、工業製品ではなくて、「命」そのもの。その食べ物の命をいただかないと、私たちも生きられません。だから、命の一員としていつくしんで、おいしく調理して、「おいしいねえー」と言葉をかわしながら、しっかりといただく。そんな日常の積み重ねを大事にして、たんにお腹を満たすだけではなく、心も満たしたい。そういう関係づくりのお手伝いができればと考えているんです。

南 同じものを食べて、おいしさを共有できるって、コミュニティの大切なポイントですね。

それに、夫婦でも、友だちでも、親子でも、同じところで笑えると、とても仲よくなれて、同じことで喜べたりします。だから、私は「合笑」、つまり笑いのポイントの相性が大事だと思うんです。

「ユーモア」という言葉には、「おかしみ」という意味だけではなく、「優しさ」という意味も含まれているそうですから、笑にくるんでメッセージを送ると、人の心に届きやすいかもしれませんね。



気にしない気にしない



気にしない気にしない • 小林 南

互いに力をもらいながら 生きている―支えあう喜び

小林 最近、福祉の活動もはじめられたそうですね。

南 はい、老人福祉施設の理事をさせていただくことになりました。それと、今春には癒しのNPO法人も立ち上げる予定です。

小林 癒しのNPO法人という？

南 これまでも震災や介助犬関係のチャリティ作品展というかたちでかわってきたのですが、個人では規模が小さいので、このさい、もっと影響力のあるNPO法人にしてはどうかということになったんです。当面は私の作品展のチャリティぐらいしか思い浮かびませんが、新しいことにも挑戦していきたいと思っています。

小林 ギャラリーのある西陣まで足を運べない方も多いでしょうから、老人ホームとか、いろんな場所で作品展をやっていたらいいですね

南 そういう場所で映像やCDを使った表現を試みるのも、おもしろいかもしれません。機

会があれば、ぜひ挑戦してみたいですね。

小林 生協も福祉については長く取り組んできて、たくさんの組合員がボランティアやヘルパーというかたちで活動しているのですが、「お世話する人・される人」という関係ではなく、支える側も「支える喜び」を感じている人が多いんですね。これは生協らしい福祉活動を考えるうえでもたいせつなことだと思っています。



お互いに対等な関係で支えあうのだから、「おじいちゃん」とか「おばあちゃん」ではなく、「○○さん」という名前をもった個人として認めて、その人が最期まで自分らしく生きられるようにサポートすること。それが、生協らしい福祉のあり方としては大事だと思っています。

南 人間は、口角こうかくをクツと上げるだけで体内が活性化するそう、割り箸をくわえて口の両端を上げるだけで、お年寄りの痴呆が改善した例もあるそうです。お化粧をしてあげたら、表情がとても豊かになって、おむつを外せるようになったという女性の高齢者の方の例も聞きますから、最初から「この人はお年寄りだから、痴呆だから」で片付けないで、最期まで「○○さん」という存在として接することが大事ですね。

お世話する側も支えられているというお話を聞いて、以前、マッサージ師さんがおっしゃっていたことを思い出しました。マッサージする方は、かたわらで見ているとすごい力を使っているように見えますが、相手の体を押したことで自分の手のひ





らのツボが押されて、実際は自分じしんが元気になっておられるそうです。「してあげている」ように見えて、じつは自分が「してもらっている」わけです。

小林 そういうことって、き

つとほかでもたくさんあるんでしょね。南さんの絵を見て、ほっとして、「よかつたわ」というメッセージを出すと、南さんが元気になる。そして、またほっとする絵を描いてくださる

…というふうに。
南 ほんとうに、私にとつて、みなさんのメッセージは宝物です。人は、そうやってお互いに力をもらいながら生きていくのだと思います。

平和、そして人間をつつむすべての環境を「ほっ」に

南 「自分らしく」という意味では、女性結婚すると、食生活や生活習慣も夫や子どもに合わせがちですね。じつは

私は、子どもの頃からナスのお味噌汁が大好きでしたが、夫はこれが嫌いだったので、私も結婚してから食べなかつたんです。

でも、去年このアトリエを構えてから、ひとりで食事する機会がふえたので、夏には「ここぞ」とばかりにナスのお味噌汁をつくって、思いっきり食べました。それこそ「ああ幸せ! ほっ」という感じです(笑)。やっぱり、周りに合わせるばかりではなくて、むしろ自分が大切にしてきた味覚や習慣はちゃんと伝えていきたいし、きちんと自分を主張したいですね。

小林 男性であれ、女性であ

れ、基本は「自分らしく」で、そのうえでお互いに認め合いたいですね。

南 そう! 自分をしっかりとっている、他人にも寛容になります。

小林 そして、ひとりでできないことは、みんなで協同して取り組む。安全な食べ物を手に入れたと思うても、ひとりでは無理ですし、現在のように食材が世界中を駆けめぐる時代には、生協だけで完結する問題でもあります。ですから、協同の運動として「食の安全」の問題にしっかりと取り組んでいかなければと思っています。

南 ぜひ、そうしていただきたいですね。食べ物を含めて、人間をつつむ環境のすべてを「ほっ」とさせないと、ほんとう

の「ほっ」もないと思っています。その意味では、戦争も関わってくるし、じつは「ほっ」って大きな問題なんですね。

小林 みんなが心の底から「ほっ」とできる世の中になるように、それぞれの場所を取り組みたいです。ときどき「ほっ」と一息つきながら(笑)。



(写真撮影・二〇〇四年二月三日 有田 知行)

京都府「食の安心・安全意見交換会」開催 小林智子副会長理事が代表発言

3月3日（水）、上京区のルビノ京都堀川で、「京都府食の安心・安全意見交換会」が開催されました。

生協からは、京都府生協連小林智子副会長理事が出席し、代表して発言しました。

京都府保健福祉部・向井忠晴理事より開会あいさつがあったのち、京都府立大学人間環境学部・中坊幸弘教授が座長役となり、会がすすめられました。

京都府の各担当職員から、「鳥インフルエンザ」「京都府食の安心・安全確保基本方針」「平成16年度京都府食品衛生監視指導計画（案）の概要」についての報告があり、それぞれに対して参加者からは、食にかんするさまざまな意見・質問が出されました。

小林副会長理事は、

- ①食品衛生監視指導計画の前提として、食の安心・安全についての基本方針の策定と議論が必要であること。
- ②基本方針にもとづく具体的な実行計画・実行態勢がしめされる必要があること。
- ③国との連携、府庁内の連携を強化するための横断的な組織が必要であること。
- ④表示問題については、府民に改善が見えるようにするべきであること。
- ⑤意見交換会を継続的に開催し、事業者・消費者・行政等関係者が「食の安心・安全」について認識をふかめる場として機能させていく必要があること。

などを発言しました。



発言する小林智子副会長理事

意見交換会には、J A・漁連などの生産者団体、百貨店協会、京都商工会議所、京都新聞、消費者団体などの代表が参加、発言しました。生協からは京都府生協連の高田艶子理事（京都生協理事）をはじめ、京都生協理事、京都生協役職員、府連事務局など15名が参加しました。



生協・J A・漁連・百貨店協会・京都商工会議所・消費者団体・京都新聞などの代表が参加しました

1月10日、コープイン京都にて 2004年 新春交歓会開催

行政・国会議員・協同組合・関係団体などから
130名のご参加をいただきました。



立命館大学邦楽部のみなさんによる演奏

1月10日（土）、コープイン
京都で「2004年 新春交歓
会」を開催し、行政や地元京
都選出の国会議員、協同組合、
関係団体などから130名の
ご参加をいただきました。

立命館大学邦楽部による演
奏でオープニングし、主催者
を代表して京都府生協連の吉
田智道会長理事が新春のあい
さつをのべました。



京都府商工部 奥原恒興部長

つづいて、京都府商工部 奥
原恒興部長、農林水産省近畿
農政局 今村洋次長、JA京都
中央会 小瀧茂専務理事より、
ご来賓のごあいさつをいただ
きました。



吉田智道会長理事



京都商工会議所 小堀脩専務理事

京都商工会議所 小堀脩専務
理事のご発声で乾杯し、なご
やかな懇談となりました。



JA京都中央会 小瀧茂専務理事



農林水産省 近畿農政局 今村洋次長

ご参加いただいた国会議
員・秘書のみなさんをご紹介
し、日頃のご支援へのお礼と
あわせ、今後の期待を申し上げ
ました。また、当日メッセ
ージをお寄せいただいたみな
さんをご紹介します。

メッセージをお寄せいた
だいたみなさん

（順不同・敬称略）

自由民主党

参議院議員・西田吉宏
京都府会議員 団

公明党

衆議院議員・池坊保子

民主党

衆議院議員・玉置一弥
参議院議員・松井孝治

京都市小売商総連合会

会長・伊藤義浩

京都市社会福祉協議会

会長・北川龍市

【ご出席いただいた国会議員・秘書のみなさん】



民主党・参議院議員
福山哲郎さん



民主党・衆議院議員
山井和則さん



民主党・衆議院議員
泉健太さん



民主党・参議院議員
松井孝治さん



日本共産党・衆議院議員
穀田恵二さん代理 秘書・早川幸男さん



日本共産党・参議院議員
西山登紀子さん

つづいて参加された議員・秘書のみなさんから、それぞれ新春のごあいさつをいただきました。

残念ながら、開会中にはまにあいませんでしたが、民主党の松井孝治参議院議員にもかけつけていただきました。

閉会にあたり、京都府生協連の小林智子副会長、理事より、ご出席いただいた方がたへお礼を申し上げます。



小林智子副会長理事



各界より130名のみなさんにご参加いただき、なごやかに新春を祝いました

12月17日、平安会館でトーク&イート企画開催

留学生が語る ～世界と日本の稲・コメ・ごはん～

2003年12月17日（水）、平安会館を会場に、トーク&イート企画「留学生が語る～世界と日本の稲・コメ・ごはん～」が開催され、200名が参加しました。

この企画は農林水産省「ごはん食推進活動支援事業」にもとづくもので、昨年11月13日に同会場で開催された「21世紀京都の稲・コメ・ごはん」生産と消費をになう」につづくとりくみ。実施にあたっては、京大生協留学生委員会のご協力をいただきました。

京都府生協連 吉田智道会長
理事が開会のあいさつをのべ、
農林水産省近畿農政局 木村均次長よりご来賓のあいさつをいただきました。

第一部・リレートーク
各国の米の生産・流通・消費の状況について、京都に学ぶ5カ国6人の留学生に語っていただくとともに、日本のお米について思うことも、それぞれ報告していただきました。

発表はパワーポイントを使用し、司会を務める留学生委員会の学生が同時通訳しながらおこなわれました。民族衣装をまとい、自国の米産業・料理・文化について誇りをもった留学生のみなさんの報告は、会場の参加者に強い印象をあたえました。

京都府生協連 小林智子副会長
理事が開会のあいさつをのべ、第一部を終了しました。



農林水産省近畿農政局 木村均次長



司会と通訳を務めた京大生協留学生委員長のウィリーさん（中国）と吉田浩太郎さん

＜報告していただいた留学生のみなさん＞



チン・ライさん（中国）



カン・ユンソンさん（韓国）



ホアン・ホン・トゥイーさん（ベトナム）



ヴィンガルトナー・テシーさん（スイス）



シャヒデュルさん（バングラディシュ）



チョウ・スウガクさん（中国）



報告終了後に、会場の参加者と留学生の間で熱心なやりとりがおこなわれました

第二部・各国のごはん料理試食会

第二部では、留学生によるレシピ・料理研究家力石さちさんの監修による12種類の各国のごはん料理が並びました。



料理研究家 力石さちさん

【試食会に出された米料理】

- ◇揚州炒飯（中国南部）
- ◇ピータン粥（中国南部）
- ◇八宝粥（中国北部）
- ◇牛肉餡餅（中国北部）
- ◇豆もやしごはん（韓国）
- ◇ホバツパ（韓国）
- ◇フォ（ベトナム）
- ◇ソイ・チエ（ベトナム）
- ◇フィルニ（バングラディシュ）
- ◇ブナ・キクリ（〃）
- ◇きのこのリゾット（スイス）
- ◇栗入り赤飯（日本）



ベトナムのフォ
（ライスヌードル）



バングラディシュのブナ・キクリ
（野菜と豆のピラフ）



韓国のホバツパ
（南瓜のごはん詰）

参加者にとって、はじめて試食にする珍しい料理が多くありましたが、レシピを提案した留



学生本人からおいしいという声が出るほど、どのメニューも好評でした。
「食」をキーワードとした国際交流は、生協らしいとりくみであるとの感想が多く寄せられました。



「第6回 コープ・産直・地場商品大交流会」開催 〜京都生協の「生産者と組合員の顔が見える関係」づくり〜

2月21日(土)、龍谷大学の深草学舎で、京都生協「第6回 コープ・産直・地場商品大交流会」が開催され、午前の試食会に500名、午後からの全体会に734名が参加しました。

【午前の部・試食会】

事業連合コープきんき 共同開発商品の試食と展示会

この交流会は、組合員・職員・生産者・メーカーがそれぞれの「顔の見える関係」を強め、次年度の商品活動をよりよいものにするを目的に、京都生協と京都生協の取引先で構成する「せいきょう虹の会」が協力して毎年開催されています。

第6回をむかえた今年のテーマは、「もつと確かに もつと身近に みんなで織りなすコープの輪」。

「商品の確かさ」や「コープ商品の開発・普及のあり方」について、この一年間とりくんできたことや学びあったことを組合員・職員・生産者・メーカーがいっしょに深め合う場となりました。

ました。

コープきんきは、昨年の秋に近畿地区7つの地域生協（おおさかパルコープ・大阪いずみ市民生協・大阪よどがわ市民生協・ならコープ・わかやま市民生協・コープしが・京都生協）が力を寄せ合い、さらなる低価格と品揃え、品質向上をめざして結成された生協事業連合です。

この間にも近畿地区共同開発商品が続々とデビューしていますが、今回は展示と試食で100種類以上の商品が紹介されました。

参加者からは、「新しい商品が、こんなにたくさんあったんですね。」「おいしいし、価格も

安いいし、うれしいです」などの声が寄せられていました。



午前の部はコープきんき共同開発商品の試食会。
「これおいしいね〜！」

【午後の部・全体会】

組合員の商品活動報告と来年度大にすることを

午後からの全体会・第一部は、組合員が一年間とりくんできた商品活動のなかから、「綾部産直物語」「お弁当用ミニてりやきチキンの開発」「秋のに

ぎわいのとりくみ」「コープきんき共同開発商品の普及と学習会」「ハンドベル演奏と商品普及」の5つが各ブロックより報告されました。

第二部では、2004年度の活動にむけ、「コープきんき」とりくみについて「聖護院大根の新産地づくりの紹介」「食と健康のあり方検討委員会からの報告」などがおこなわれました。



午後の部の開会にあたり、京都生協の小林智子理事長（京都府生協連副会長理事）が主催者を代表してごあいさつ



700名をこえる参加者で、午後からの全体会場はいっぱいになりました。

地域の中に健康づくりの輪を広げたい ～乙訓医療生協の健康チェック活動～

乙訓医療生協では、血圧・体脂肪・尿などを無料でチェックし、健康についてのアドバイスや相談をおこなう「青空健康チェック活動」に、旺盛にとりくんでいます。

支部や班の活動としてはもちろんですが、地域で開催される他団体の行事にも積極的に参加し、健康づくりの輪を広げました。

2003年度は、12月末現在でのべ3474人が健康チェックを受けています。2004年3月末までには8支部すべてで「青空健康チェック活動」が実施できる予定です。



向陽支部では、京都生協の店舗コープむこうしと連携して、2003年6月から毎月1回定期的にチェック活動を実施。六向支部では、JAの店頭をかりて2003年5月から10月までとりくみました。

また、班会でもチェック活動をきちんと位置づけていますので、集まれば必ず血圧・体脂肪・尿のチェックを行なうようにしています。

チェックを受けられた方からは、「昨年の尿チェックで塩分が高」と指摘をされたので、年間ずっと減塩をこころがけてきました。今回よい結果が出てうれしかった」「体脂肪が高いので、減らすために日頃からがんばって歩くようにしています」などの声が寄せられています。このような反応があると、地道な取り組みではあるけれど、健康を

意識するきっかけづくりの一つになっていると実感でき、うれしくなります。

各支部では健康講座を開催して、組合員自身で健康チェックができるように学習したり、看護師資格のある組合員ボランティアさんのご協力をいただきながらすすめていることもこの活動の大きな特徴です。

これからも、地域に根づいた乙訓医療生協の健康づくりのとりくみを、もっともっと広めていきたいと思っています。

(乙訓医療生協組織部 小野留美子)



大学生協京滋・奈良地域センター総会開催

2003年12月6日(土)、京都橘女子大学で大学生協京滋・奈良地域センターの総会が開催され、190名が参加しました。各大学での環境や平和、お店づくり、産地研修など2003年度の活動について交流し、2004年度の活動スローガン「学びと成長を広げ、想いを大切にし、一人一人の顔の見える魅力ある大学・地域・社会をつくろう」を決定しました。



2003年度JA京都女性組織協議会と京都府生協役職員・組合員との懇談会開催

2003年12月18日(木)、JA京都女性組織協議会と京都府生協役職員・組合員との懇談会が開催され、JAから17名、生協からは14名が参加しました。

第6回となる今回は、2002年4月にオープンした京都生協の店舗・コープ二条駅を見学し、小野元四郎店長より店舗概略について報告いただきました。

つづいて中京区の京町屋で交流会を開催。京都府生協連 小林智子副会長理事が開会のあいさつをのべ、「食の安全」をもとめるとりくみへのお礼と、今後の課題「消費者保護基本法抜本改正」にむけたとりくみについて報告しました。



2003年度ライフプランセミナーを開催

1月10日(土)、平安会館を会場に京都生協共済会・京都府生協連の共催で「2003年度ライフプランセミナー」を開催。約70名が参加しました。

これは、おもに30～40歳代の子育て期の役職員を対象としたセミナーで、昨年第1回目を開催し、好評だったものです。

講師は昨年にひきつづきファイナンシャルプランナーのいちのせかつみさんにお願ひしました。「おもしろく生きよう!」充実した人生を送るための『生涯生活設計』を考える」と題し、基調講演と具体的な生活設計についてのアドバイスをいただきました。



京都府生協連と各会員生協との防災訓練実施

1月15日(木)、災害発生時に生協としての適切な行動に備えるため、京都府生協連と各会員生協の災害対策本部設置と立ち上げ、および相互連絡訓練を実施しました。

これは1995年に発生した阪神淡路大震災を教訓とし、災害時における生協のあり方、必要な体制づくりを災害対策マニュアルにもとづき訓練するもので、今回は京都市内で震度7の大型地震が発生したという想定のもとでおこなわれました。

近畿「食の安全・安心に関する意見交換会」に参加

1月16日(金)、ホテルニュー京都を会場に農林水産省近畿農政局主催の「食の安全・安心に関する意見交換会」が開催されました。

京都府生協連からは坂本事務局長・酒向事務局担当が参加し、2003年7月に制定された「食品安全基本法」、リスク評価機関として設置された「食品安全委員会」のとりくみ状況についての説明を受けました。

「近畿地域食品表示フォーラム」に参加

1月24日(土)、クレオ大阪北ホールで農林水産省近畿農政局・厚生労働省・公正取引委員会事務局総局近畿中国四国事務所・社団法人日本農林規格協会の主催で「近畿地域食品表示フォーラム」が開催され、京都府生協連からは坂本事務局長が参加しました。

基調講演に続くパネルディスカッションには京都生協の小林智子理事長(京都府生協連副会長理事)がパネリストとして参加。消費者の立場から食品表示についての意見をのべ、食品表示行政への期待を報告しました。



「消費者団体訴訟制度を考える連絡会議」設立総会開催

1月24日(土)、大阪市北区の「いきいきエイジングセンター」で「消費者団体訴訟制度を考える連絡会議」設立総会が開催され、消費者団体や専門家などから56名が参加しました。京都府生協連は設立趣旨に賛同し、加盟団体として小峰専務理事が出席しました。

この連絡会議は、消費者のさらなる権利実現の方策のひとつとして検討されている「消費者団体訴訟制度」の創設にむけて設立されたもので、制度のあり方や活用について、消費者団体だけではなく、弁護士・司法書士・学者などの専門家が広く情報交換・議論するための継続的な場となります。



2003年度 監事・役職員研修会開催 「コンプライアンス経営をテーマに」

2月14日(土)、せいきょう会館で2003年度 監事・役職員研修会が開催され、各生協から23名が参加しました。

今回は、日本生協連「コンプライアンス・プロジェクト」が生協のコンプライアンス経営確立にむけてまとめた報告書にもとづいての学習をおもな内容として実施。

日本生協連政策企画部の清藤正さんを講師にお迎えし、「生協におけるコンプライアンス経営を促進するために」と題して講演いただきました。

つづいて研修会へのご協力をいただいた京都府商工部消費生活課の蔭山琢也主事より、「京都府からの課題提起」指導検査などとおして」と題しての報告がありました。

食品表示の偽装問題をはじめ、職場の安全管理や労務管理の問題など、生協においてもコンプライアンスにかかわるさまざまな問題が発生するなかで、今後の生協運営において重要な内容の研修会となりました。



日本生協連政策企画部
清藤 正さん



京都府商工部消費生活課
蔭山琢也主事

マスコミ関係者と京都府生協連 役職員と懇談会開催

3月9日(火)、平安会館を会場に、京都に本支局を置く新聞放送編集者と、京都府生協連役職員との懇談会が開催されました。これは、京都の生協活動の現状と課題をマスコミ関係者にお知らせし、意見交換・懇親する場として毎年おこなわれているものです。

開会にあたり、京都府生協連吉田智道会長理事と、共同通信社京都支局樋口伸司支局長からあいさつがありました。

生協からは、2003年度の特徴的な活動紹介として、「組合員のくらしの要望と地域生協の課題」(京都生協小林智子理事長)、「大学をめぐる情勢と大学生のくらしの実態」(大学生協京滋・奈良地域センター横山治生事務局長)、「医療をめぐる状況と医療生協の活動について」(京都医療生協田中弘専務理事)、「消費者政策の強化をめざして」(京都府生協連小峰耕二専務理事)などについて報告し、マスコミ関係者からは、鳥インフルエンザ問題への生協の対応や事業連合コープきんき、医療生協の現状などについて

質問が出されました。

京都府生協連 小林智子副会長理事(京都生協理事長)が閉会のあいさつをのべ、終了しました。



<懇談会にご参加いただいたみなさん> (順不同・敬称略)

朝日新聞社京都総局	総局長: 樋口 修
NHK 京都放送局	放送部長: 榎本 栄三郎
京都新聞社	編集局総務: 福田 幸男
共同通信社京都支局	支局長: 樋口 伸司
時事通信社京都総局	総局長: 榎本 雅晴
中日新聞社京都支局	支局長: 伊藤 博道
日刊工業新聞社京都支局	支局長: 花岡 敬二
日本経済新聞社京都支社	支社長: 秋山 光人
日本経済新聞社京都支社	支局長: 種田 龍二

—3月1日、京都府に「高病原性鳥インフルエンザ対策にかんする要望」を提出しました—

2月27日、京都府丹波町内の採卵鶏農場で2万8000羽の鳥が死亡、29日、高病原性鳥インフルエンザと確定され、発生農場で飼養されている19万羽の殺処分措置が開始されました。国内では山口・大分について第3の事例発生ですが、発覚からの経過・感染規模・影響範囲などの点において、前2例をはるかに上まわる、大きな衝撃が府内また近隣府県を走りました。

当該業者の基本的な認識の問題をはじめ、行政・関連業者から出される情報の不正確さや連携不足などのなか、「食への不安」から消費者の鶏卵・鶏肉の買い控えが続き、また、生協と提携関係にある生産者も今後への不安感をつよくしています。そして、その後の経過のなかで、さまざまな問題がつつぎと露呈し、消費者の不安・不信はさらに増幅されたものとなっています。

今回の事態にかんしての「高病原性鳥インフルエンザ」対策は、きわめて緊要性が高いものであり、また府内・近県にとどまらず、ひろく全地球的な規模での責務をふくんだ課題であるといえます。「食品の安全確保」は、わたしたち消費者にとって、もっとも基本的な願いであり、BSE問題（牛海綿状脳症）やひきつづく食品偽装事件などの教訓を生かし、また昨年制定された食品安全基本法や改定食品衛生法の基本点をふまえ、以下の点について京都府に要望するものです。

《高病原性鳥インフルエンザ対策にかんする要望》

【情報の提供等について】

- 一、今回の事態にかんして、京都府が入手しうる情報について、迅速かつ正確に、広く府民に提供すること。とくに消費者団体にたいしては、FAXやEメールを活用した情報提供をおこなうこと。
- 二、適宜、行政・事業者・消費者をまじえた意見交換会を開催すること。
- 三、広報にあたっては、今日的な科学的知見にもとづく内容であること。

【調査・検証の強化について】

- 一、感染のルートについて調査・解明をおこなうこと。
- 二、2月19日の府の実態調査について検証をおこない、改善課題を明確にすること。
- 三、2月27日の事態発覚まで、事業者より行政へ通告のなかった過程（プロセス）について検証をおこない、改善課題を明確にすること。

【「安全・安心」の推進について】

- 一、「食の安全・安心」についての総合的な施策を確立し、あわせて総合的な推進をはかる部局を知事のもとに新設すること。
- 二、業者への指導について、見直し・強化をはかること。あわせて、移動制限区域内にある生産者の鶏・卵について、行政が責任をもった措置をおこなうこと。
- 三、国・隣接府県・京都市との連携を強化すること。
- 四、府民の健康不安にこたえる施策を強化すること。
- 五、関係する生産者・流通業者への補償について、最大限の努力をおこなうこと。

以上

おもな行事のお知らせ

京都府生協連 第51回通常総会

日時：6月8日（火）

午後1時30分～5時（予定）

会場：池坊学園洗心館 6階第1会議室

京都市下京区四条室町鶏鉾町491

TEL 075-351-8581

【予定議案】

- 2003年度活動報告・決算報告承認の件
- 2003年度剰余金処分案承認の件
- 2004年度活動方針・活動計画および予算決定の件
- 2004年度役員報酬限度額決定の件
- 会員規約の一部改定の件
- 情報開示に関する規約新設の件
- 議案決議効力発生の件
- 役員選挙
- その他

※4月発行の『京都府生協連ニュース』No.49で総会の開催と役員選挙についての公示をおこないます。

ピースアクション2004年

京都—平和行進—

日程：2004年6月21日（月）～26日（土）